
On Your Mark

おほか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

O n Y o u r M a r k

【Nコード】

N 6 7 0 1 Z

【作者名】

おかか

【あらすじ】

普通に過ごしていた主人公 カイトがある日事故にあつて、植物状態になる。心配し、悲しむ人たちの中の一人の少女の前にカイトが幽霊であらわれて……………

事故までがけっこう長いです。主人公は一応死にません。

プロローグ（前書き）

こんにちはおなかです。

駄文ですが、読んでいただけると嬉しいです。

プロローグ

オレの名は山口海人^{やまぐちかいと}

山も海も入ってるから天下統一もできるかもな．．．なんて、いつかうちの父さんが言ってた気がする。まあ、体育以外オール3のオレにわかるのだから、父さんは結構バカなのかもしれない。まあ、それは置いとく。

高二とは、受験もなくって一番楽しい青春時代だ！そしてその高二の立場にオレはいる。九十^{くとうはま}浜高校の二年だ。え．．．っと、ピース？今の季節は春ときた。そしてクラス替えでーす！

オレにも、好きな子がいる。幼馴染のアイツ。雪^{ゆきしろなつき}白夏季。夏と海で合うかもなんて考えるオレはやっぱり父さんに似ているのだろうか。クラス．．．同じだといいな。オレ女々しいな。おっ貼り出されてる。

さっさあ見るぞ．．．．．。

「イエス！！」あつ．．．つい叫んでしまった。そしたら

「オレと一緒に喜んでんのか？」と言って抱きついてくる変態が一人。

「おゝまゝえゝはゝゝ気っ持ち悪いんだよ！」

「ひどいわ！カイトくゝゝん？」

「うつわ．．．キモ。てか、抱きついてくるお前が悪い。」

そういうひとつひとつの動作で笑う一年がムカつく。

「一年生どもよく聞け　い。オレを笑っていられるのも今のうちだかな。」

「でもでもっ体育以外はオール3じゃないですかあ！カイト君！」「うるせー！黙っとけ！」

笑う全校生徒とどこから聞きつけたのか追って来る校長と逃げるオレ。

プロローグ（後書き）

短いですね。すいません。幽体離脱はけっこう後です
読んでいただきありがとうございます。
よかったです感想お願いします。

クラス替えとこんにちわヒロイン（前書き）

どうも。おかかです。今回は少し長めです。少しですけどね。

クラス替えとこんにちわヒロイン

紹介が遅れていたが、「ウザイ」「キモイ」「キャラ濃い」などと思われた方も多いであろうこいつの名前は佐藤拓也^{なつたけ}。名前だけは立派なのにな〜。

女子から「たくちゃん」と呼ばれオレに向かって「オレモテすぎちゃって困っちゃ〜う。」などと言っているが、オレのがモテてるわ。ラブレターとか月一でもらうし、ハハーン。バレンタインともなれば、15個は固い（義理含めて）いつか母さんに「顔と声はいいのにね〜。」なんて言われたが、置いてこう。

このクラスでよかったー。先生も普通だし。

でも、

一番よかったのは、ナツキと一緒にということだ。

そう思うオレは、やっぱり女々しい。

サバサバしているナツキのことだ。クラスが分かれたら、きっと切り捨てられてた。友達として。

ゴーカイな男ならよかった。そしたら、クラスなんて飛び越えてでもナツキに会いに行くんだろうな。

でもオレにそういう勇氣はない。

ナツキとオレの関係は、幼馴染で友達。周囲から見れば「純愛」ッ

ポクでいいじゃない。なんて思われるかもしれない。
それは違う。

幼馴染だからこそ遠い。

いつそのこと、タクヤみたく笑ってられるポジティブなやつならよかった。なんて思ったことがあった。ムリだし。なりたくないから、一瞬で捨てたけど。そんな事を考えていたら始業式が終わってしまった。

世界の中でも最上級の女々しさだと思うよ。オレだって。

そのまま休み時間突入！かと思いきや担任の話。長くて楽しくないけど。まあこれが高校生のお仕事も一つですからね。しかたない。少し思ったことがある。担任は思ってたよりイイ奴みたいだ。

「というわけで二年生として気を引き締めていこう！な～んて言っても、中だるみの二年だしなあ。あっ一年の時G組のやつは今年もよろしくな。．．．．．長い話も終わりだから。それにしても、あからさまにぼーっとしてくれるねえ。山口君。」

「えっあっはい！すいませんでしたー！ー！！！」

みんながあまりにも大きい声で笑うから。つられて笑う。タクヤは腹かかえて笑ってる。まあ、後でシメルケド。ナツキも笑ってんなあ。ちよつとうれしい。

「じゃ～～～、休み時間にするぞ～～。」

ガタガタガタガタ。

「アリガトウございました。」

う～～～むイクラスだなあ。

そんなことを考えているとナツキとユヨルが寄ってくる

「また一緒によかった～～。友達いるのは安心だもん」うわグサグサくるなあ。友達．．．分かっててもね．．．．。

「オレもよかったよ。ナツキと一緒にで！幼馴染だもん。」自分で言ってるや世話ないぜ。

「私もね一緒によかった～～～って思ってたところだよ。」

こっちはユヨル。本名早川由夜はやかわゆよるスタイルが良くて身長がやや高い。オレよりはぜんぜん下だけど。(オレ179cmでユヨルは170cmだからやや高めとなっております。ちなみに、タクヤは185cmでナツキは160cm。長身が多いグループだ。それゆえに低めのナツキはいつも「ずるいよ〜」と言っている。)

オレとナツキとユヨルとタクヤは仲がいいとされている。

「私ね！海に行きたい！四人で！夏休みに！」

「氣イ早！！ユヨル！」だってまだ一学期はじまったばかりだよ！おかしくね！？

「夏なんてすぐ来るって！すぐ！だから今から計画たてようよ。2泊3日がいんだけど〜。」

「ちよつと待て！！春にはオレの一年の華、体育祭があるんだぜ。」

「「あつあつ〜。」」「三人の声が重なる。

なるほどと言いたげな顔をして。

クラス替えとこんにちわヒロイン（後書き）

駄文だなあ。

すいません。ほんと。

委員決め（前書き）

今回はすっげー短いです。事故まで急ピッチで行きます。

委員決め

「くか　っ。」

そう寝ていたのが悪かった。オレはあいつをナメていたんだ。

キンコーンカンコーン

「はっ」という大きな声とともに起きた。なぜかみんなクスクス笑っていた。ナツキを見ると、黒板を指していた。今すぐに見るとでも言うように。見てみると、そこにはニヤニヤしたタクヤがある場所を指していた。

そこには、体育祭実行委員　男　山口　海人　女　早川　由夜
と書いてある。

犯人はすぐにわかった。ほんとすぐに。

「タ〜ク〜ヤ〜。お前だろ！」

「だあって、寝てたし〜。カイトの名前はわかりやすいから、つい推薦しちゃったんだよ〜。」

「理由になつてね〜。」半ばあきれ気味に言う。

「まあまあ！私もやるんだしいいじゃないですか！」

「だって！去年もオレがやったんだよ！おつかしいだろ〜！」

「ぐだぐだ言わずにやつちやいなさいよカツィット！」

「うっ！ナツキまで言うなよ！」　　実はなあ、嫌な理由がもう一個あるんだよなあ。

「ふう〜〜」

「安心すんなよ！タクヤ！．．．えっ．．．おい．．．までよー！．．．」タクヤは走って逃げた。

オレもタクヤの後を追って教室を出た。

「後でまたタクヤ君にお礼を言わなきゃ。一年の時にも同じことしてもらっちゃったし。」
「そうだね。ユヨル。」

委員決め（後書き）

ユヨル〜！！！！

実行委員会初日（前書き）

少し長めです。

キャラおかしいかもです。

実行委員会初日

「カイト君！今日、実行委員会！」

「えっあつうそだろ！？実行委員の担当の先生つて紺野こんのだろ～～？」

「えっ？そうだけど、それが？」

「あいつ、オレのこと気に入ってるのか知らないけど、な～～んかからんでくだよなあ。」

「まあ．．．そうだね～～。でもそれが？」

「去年！！オレあいつに！！副実行委員長にさせられたの！！ユヨルもいたでしょう！！」

「そうだったね．．．。でも”やめてください”って言えばいいじゃない。」

「そんな勇氣は．．．ないんだよね～～。」

「ヘタレ～～。」

「は～～い！ヘタレでございま～～す。」

「サ エさんか！．．．あつもう！こんなことしてたから！行くよ！遅れたら、カイト君が謝ってよ？」

「へっへ～～い」

ガラッ

「「おっおくれました～～。」」

「遅いぞ！これだから山口は。」

えっオレだけ？ユヨルは？

パチパチパチッ

その拍手はなんだー！もう逃げられないし！

もうしょうがない。しょうがない。言い聞かせよう！ああー。たすけてー！！ナツキ。心の中で言ってみる。やるしかないからやるけど。

頑張れオレ！・・・・・・・・・・ララバイ青春。？

席を立つて前に行く。

「じゃあ、まず副委員長を各学年選出してください。」

ざわざわざわ・・・・・・・・

実行委員会初日（後書き）

もうどんどん飛ばしていきたいと思います。
そのせいで、文おかしくなるかもです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6701z/>

On Your Mark

2011年12月25日21時51分発行